

2023-24年度 朝岡会長テーマ -みんな 楽しく 仲良く そして未来へ-  
第3141回例会 令和6年4月23日(火) 天気:曇 No. 33

2023-24年度  
RIテーマ



世界に希望を生み出そう



会長 / 朝岡 正 幹事 / 松田茂治

クラブ会報委員 金原健志 / 本田正則 / 大内基浩 / 宍戸秀隆

例会日: 火曜日 12:30 例会場: 西尾コンベンションホール

事務局: 西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL: 0563-54-7770 FAX: 0563-54-7050 URL: <https://www.nishio-rotary.org>

### 【本日のプログラム】

司 会 杉田武男例会運営委員長 齊 唱 「奉仕の理想」  
スピーカー 三河新報社 伊藤哲央様 「家康、西尾でどうした？」  
食 事 ティヴィヌヴァレー



### 【会長挨拶】



今日はスペインのサグラダファミリアの話をしてします。スペインのバルセロナにあるサグラダファミリアは、建築家アントニ・ガウディによって設計された世界的に有名な建物です。ガウディは1852年6月25日に生まれて1926年に亡くなりました。スペインのカタルーニャ出身です。19世紀から20世紀にかけて活動した建築家で、サグラダファミリアやグエル公園などを手がけました。2005年にユネスコの世界遺産に登録され、140年ぐらい建築が続いています。2026年に完成予定のメインタワーは高さ172.5メートルでイエスキリストの塔として知られています。イエスの塔の主任彫刻家は外尾悦郎さんという日本人で、300以上の彫刻を作成しています。外尾氏が作られた15体の天使の像というのがあるのですが、天使は石から掘り出されるのを待ちわびているようだということで称賛されていますが、その中に東洋にも天使がいるという考えから、2体は東洋人の顔をしています。先ほど言いました塔としては、2026年にメインタワーのイエスキリストの塔が完成します。バルセロナに行く観光地になっていて、この収入、入場料が建築費になるということなので、機会があればぜひ行ってみてください。

### 【委員会報告】

#### 〈出席委員会〉本多 淳委員長

本日の出席数 62名

欠席数 8名

出席率 88.57%

#### 〈スマイルボックス委員会〉谷崎直樹委員長

**朝岡 正君** 三河新報社 伊藤哲央様 卓話よろしくお願ひします。

**松田茂治君** 伊藤様ようこそ西尾RCへ。卓話よろしくお願ひします。

**榎原康正君** 伊藤哲央さん卓話楽しみます。

**尾崎隆爾君** ようこそ 三河新報社 伊藤哲央様 卓話楽しみにしております。

**三浦眞澄君** 伊藤さんようこそ西尾RCへ。卓話「家康、西尾でどうした？」楽しみにしています。

**岩瀬淳治君** 三河新報社 伊藤哲央様、本日は宜しくお願ひします。

**二宮英樹君** 永江さん開場記念優勝おめでとうございます。

**永江義澄君** 葵カントリーの開場記念大会でダブルペリアのハンディーがうまくはまり優勝させて頂きました。ただし老年組です。でも嬉しかったです。

**岩瀬正広君** ゴールデンウィークやっぱり仕事が入ってしまい谷崎君と遊べなくなり嬉しいスマイルです。

**犬塚富雄君** 今週結婚45周年と妻の誕生日を兼ね昭和の新婚旅行の定番、熱海へ初めて行きます。GW明けでは失念しているといけないので、先にスマイルします。



## 〔卓話〕 三河新報社 伊藤哲央様 「家康、西尾でどうした？」



鎌倉時代から西尾を治めてきた徳川家康が産声をあげたのは岡崎城でした。しかし、岡崎市では家康は「家康公」ともてはやされていますが、西尾市にとっては実は侵略者で、「家康公」と呼ばれることはありません。

家康が生まれる前の話です。長縄町には祖父の清康の史跡があり、松平清康公仮葬の地という石碑が立っています。松平清康は人徳があり、武勇もある人物で、西三河では豊田や岡崎、安城などに領地を広げていきました。しかし、清康は家臣の子供、阿部弥七郎に暗殺されてしまいました。この時、清康の家臣で長縄を治めていた大河内という人が遺体を運び出して、敵を避けながら長縄の地に葬ったという伝説が残っています。

室場小学校の北にある小さな山は、室城という城の跡です。この場所は、徳川家康が生まれる前の家康の父である広忠に関連する史跡です。清康が暗殺されると、清康の叔父である信定が岡崎城を乗っ取り、清康の嫡男である千松丸を追い出しました。千松丸は伊勢に逃れて海を越え、静岡県磐田市あたりに移り、再び三河へ戻ってきました。この時、千松丸をかくまったのが吉良町にある東条城の城主、吉良持広でした。吉良持広は室城で千松丸を保護し、元服の儀式を行い、広忠と名乗らせました。そして、岡崎城を乗っ取った信定が亡くなると、広忠は岡崎城に戻り、松平家の当主としては解任されました。室城で吉良氏が広忠をかくまっていなければ、家康が生まれることもなく、歴史は大きく変わっていたかもしれません。

家康は5歳くらいで尾張の織田家に人質に出され、6歳で今度は駿河（現在の静岡県）の今川家に身を送られてしまいます。この今川家で家康の教育係だったのが、太原雪斎というお坊さんでした。太原雪斎は今川家の軍師で、今川義元の右腕として三河の方へ攻め込んできました。西尾の地は当時吉良家が治めていましたが、吉良家の菩提寺でもある実相寺は荒れていました。実相寺は臨済宗の大きなお寺だったため、同じ臨済宗の太原雪斎が出向を図りました。実相寺は、この14年後、1560年に、桶狭間の戦いの直前、織田によって焼き払われてしまいました。しばらく経ってから、家康の家臣の鳥居元忠が復興しました。

また佐久島の崇運寺には、家康が立ち寄ったという言い伝えが残っています。この時期は秀吉の時代から1600年の関ヶ原の戦いの前で、家康は豊臣政権を主導していました。家康は上杉景勝との対立を抱え、佐久島で一泊し、豊橋へ向かいました。その後、家康は大坂城で反家康の旗を揚げた石田三成に対抗し、関ヶ原の戦いで圧勝し、征夷大將軍に任命され、江戸に幕府を開きました。

他にも妙善寺（通称カボチャ寺）には、家康のお妾の位牌が祀られています。また、1605年には家康が矢作新川の改修を命じ、これは水害対策や物流の発展を考慮したもので、大坂方からの攻撃に対する重要な防衛ラインとしても機能していました。

寺津町にある養国寺の「国」という字は、元々国ではなく穀物の「穀」でした。江戸幕府を開いたばかりの家康が寺に立ち寄り、穀物で万人を養うという名前から、ひいてはそれが国を養うことにも繋がると考え寺の名前の一文字を穀から国に変えたそうです。このように家康は寺の名前を変えることを好んでいたようです。

西尾市の資料館には、さらに詳しい資料がありますので、ぜひ手に取ってみてください。